

令和 3 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370600512		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホームいいとよ 南乃家		
所在地	〒024-0004 岩手県北上市村崎野12地割74番地28		
自己評価作成日	令和3年12月22日	評価結果市町村受理日	令和4年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園に囲まれたのどかな環境であり、近くに県立病院、同法人の包括支援センターがある。敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービス、介護保険相談室やヘルパーステーションがある。介護理念に沿ったケアを目指し、毎月チーム目標を設定し取り組んでいる他、個人目標も設定しスキルアップに取り組んでいる。「毎日笑い合える日々」を大切に、利用者様、職員ともに穏やかに楽しく過ごせるよう職員一同努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園に囲まれた広い敷地内にあり、同法人の、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、保育園と隣接し、近くには、県立中部病院、薬局、コンビニがある。職員は、介護理念に基づくケアの提供に、努力と工夫を重ねている。事業所独自で作成した「好きなことシート」を活用し、利用者一人一人の思いを把握し、思いに沿ったサービスの実践に努めている。同法人系列の訪問診療や訪問看護ステーションと連携を図りながら、チームで看取りの支援を行っている。コロナ禍の収束は見通せず、外出や面会、地域との交流の制限等、感染防止対策を継続しながら、職員は、室内で利用者が楽しめる行事等を催し、「毎日笑い合える日々」を大切に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいて施設独自の介護理念を構築し、3年毎に見直し更新している。目につく所へ掲示して理念に沿ったケアができるよう、毎月チーム目標を設定し振り返りを行っている。	職員会議で3年毎に介護理念の見直しを行ない、更新している。居室担当者は、利用者一人一人に合わせて年間目標を決め、2、3ヵ月毎に振り返りを行い、理念に沿ったケアの提供に日々努力している。	介護理念について見直しをし、時宜に合わせて更新しながら、職員一人一人が目標を持ち理念の実践に努力されていることが窺われる。今後も、理念に沿ったケアの提供を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入。地区行事への参加。施設行事がある際は回覧板を回し呼びかけてるが、コロナ禍にて交流が行えていないのが現状である。	自治会に加入しており、回覧板で事業所の情報等も地域に提供している。コロナ禍のため、地域の行事には参加できないが、隣接する保育園との交流を継続している。園児が駐車場で踊ってくれ、窓越しに見たり、事業所の行事のゲームの景品に、園児から団扇をいただいたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや職場体験の際に説明しているが、コロナ禍にて受け入れができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。事業所の現状や取り組み、行事報告を行っている。コロナ禍にて書面での開催だったが、感染対策を講じながら11月は集まって開催した。	コロナ禍にあつて、会議の開催方法について委員へのアンケートの結果を受け、書面で開催している。会議には、地区長や民生委員、家族、行政等も参加し、運営状況や行事報告等を資料で示しながら意見を伺っている。	委員に開催方法について意見をいただいたことは会議への参加意欲や関心を高めることに繋がると思われ、また、前回の外部評価後に行政関係者の委員も増員している。次は、利用者の参加について取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の変更。更新の手続きの支援。必要に応じて連絡を取っている。	要介護認定申請等については、介護支援専門員が市の担当課窓口へ直接提出し、相談等行なっている。市とは、円滑な連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠している。玄関感知センサー、離床センサー等必要に応じて使用しているが、使用時間を短くしていき外していけるよう毎月話し合いをしている。年2回内部研修を行っている。	勉強会に併せ、身体拘束適正化検討委員会を毎月開催している。委員会では、離床感知センサーを使用している利用者について、全職員が書面で状況確認を行い、できるだけ使用時間を短くしたり、外せるよう工夫している。スピーチロック等の身体拘束や虐待についての研修も行なっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い周知徹底を図っている。毎月の委員会でもケアの振り返りや不適切なケアがないか話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、資料等で情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って疑問点や不安点が残らないよう確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の広報誌発行の他、居室担当制を設けており、担当が毎月の状況を写真を添えて文章にて家族様に報告している。コロナ禍にて家族交流会は中止となっているが、面会時やこまめな電話連絡で状況を伝えたり、要望を聞くようにしている。	利用者個々について、居室担当者の手書きで「〇様の最近の状況」として、行事等のカラー写真を添えて家族に送付しており、感謝されている。コロナ禍により面会は限られ、直接意見を聞く機会は少ないが、電話等でも家族からの要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や定期面談の時だけでなく、いつでも提案や相談ができるよう努めている。	職員は、年間の個人目標を決め、2、3カ月に1回は管理者と面談し進捗状況を確認しており、その際、個人の悩みや思い等も話題にしている。業務内容については、業務改善委員会で提案し改善している。利用者のケアに合わせ、日勤の時間を検討しシフトに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算Ⅰ、特定処遇改善加算Ⅰの取得、計画的な有給休暇、介護・看護休暇の取得。研修参加の受講費用や交通費の補助。永年勤続表彰など。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加が厳しい状況であるが、内部研修では毎月担当制にして勉強会を行っている。また、個人目標を設定し定期的に主任と面談を行いスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて他事業所との交流はできていないが、法人系列の施設間で情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や入居時に要望などを確認している。生活歴やこれまでの経緯を把握して安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約時に、入居に関して困っている事や不安点、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様から状態や要望を確認し、担当ケアマネとも話し合い、状況に応じて他のサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人出来る事や得意なことを見極めて、職員と一緒に洗濯物たたみや食器拭きを行っている他、干し柿作り等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子を書いたお手紙を送付し、状況に応じて電話での報告をしている。年3回の広報誌送付や年3回の家族交流会を設けているが、コロナ禍にて交流会は開催できていない。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて窓越しやオンライン面会となっている他、外出が出来ない状況である。通院付き添いについては感染対策を十分にとりながら行っている。	コロナ禍で、家族や友人等との面会は窓越しとなり、タブレットでも面会が出来るようにしている。家族との通院が貴重な外出の機会となり、外食ができないのでアイスや弁当を買って車で食べる事も楽しみとなっている。職員は、室内で出来る行事を日々工夫し、利用者の生活に張り合いをもたらしている。家族やボランティアが、畑作業に協力してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や相性を考慮した食席にしている。職員が橋渡しをしながら利用者様同士でスムーズに会話ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談できること、必要時には支援できるよう声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様から希望・意向を聴きとり情報を集めている。日々の会話や言動から思いを引き出し汲み取り、好きな事シートやケース記録、申し送り等で職員間での情報共有をしている。	事業所が独自に作成した「好きなことシート」に、日々の関わりの中で把握した利用者の様子や言葉等を、また、思いをことばで伝えられない利用者は、表情や顔つき等で確認した事柄を記入し、職員全員で共有している。シートの内容を介護計画に取り入れ、日々のケアに活かしている。	事業所独自の「好きなことシート」は、良く工夫されている。職員が気づいた事柄を記入し、その事柄に他の職員がコメントし、利用者の思いが伝わってくるものになっている。今後も、シートを活用し、利用者の思いに応えるケアの提供を続けられることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にて家族様や担当ケアマネから情報収集している。了承を得て他サービス利用時の状況を聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や出来る事、ADL状態などを把握する他、その日の体調や言動についても記録に残して情報共有している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に計画作成担当者、介護主任、居室担当で話し合い見直しを行っている。本人様の状態変化や家族様の要望に合わせて都度見直しをかけている。	3ヶ月毎に、計画作成担当者、介護主任、居室担当者が話し合い、介護計画の見直しを行なっている。介護計画の見直しの際には、参加できる利用者也参加し、家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何気ない会話や日々の過ごし方など細かくケース記録に残し情報共有して介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況やニーズに合わせて可能な限り通院介助や訪問美容等の対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、保育園との交流を行っていたが、コロナ禍にて行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続するようしており、受診時にバイタルや様子の記録を渡している。必要に応じて受診同行し様子を伝えている。重度化にて受診が困難になった場合は訪問診療を勧めている。	両棟で、13人の利用者が法人系列の訪問診療をかかりつけ医として受診し、状態の変化や医師から伝えたいことがある場合には、診察に家族が立ち会っている。他の入居者は、入居前からのかかりつけ医を継続し、家族が通院同行している。訪問看護ステーションも利用しており、医療との良好な関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護来苑時に状態や気になる事を報告し、急変時には電話にて報告し指示をもらっている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に病院へ情報を提供している。退院前のカンファレンスに参加し、受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明をし意向を確認している。状態が変わる都度医師より説明を受けて話し合いを重ねている。職員間でも情報共有しケアの話し合いを行っている。	入居時に、重度化した場合の対応や看取りについて、利用者や家族に説明し同意を得ている。現在、1名が看取りを希望している。身体状況が悪化してきたり看取りに際しては、主治医の訪問診療時に家族も同席している。医師や訪問看護師と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。職員も看取りの勉強会や実践後の振り返りのカンファレンスを行なうことで、安心して支援できている。	看取りに対応した職員のケアを手厚く実施している。管理者は、職員が看取りを経験する毎にスキルが上がっていくことを確認しており、研修等を積み重ね、今後も、ケアの質の向上に事業所として取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは定期的に見直しをかけている。ファイリングしていつでも確認できるようにしている 他、電話連絡・救急搬送時のマニュアルは電話の側に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(夏・冬)避難訓練を行っている。水害想定は避難経路の確認と施設内での対策マニュアルを確認している。夏は消防立ち合いの元、地域の方も参加しての訓練としているが、コロナ禍にて消防立ち合いのみとなっている。定期的に利用者様のADL時確認も含めて避難場所まで歩くミニ訓練を行っている。	ハザードマップ上では、浸水や土砂災害の危険地域となっていないが、水害時の避難マニュアルを作成している。年2回避難訓練を実施し、地域の方にも協力頂いていたが、今夏は、職員と利用者で訓練を行い、報告書を直接消防署に持参して指導や助言をいただいている。2月には、暗い時間帯の訓練を予定している。コロナ禍で、地域の協力は難しいが、系列の事業所の協力が得られる体制が出来ている。	職員全員が避難訓練時に勤務となるシフトを組むなどの地道な努力を行っており、今後も継続されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の会議で再確認している。入浴や排泄などプライバシーの配慮に気をつけ、自尊心を傷つけないような声かけを心掛けている。	利用者一人一人の人格や誇りを損ねない対応について毎月の会議で話し合っている。居室に入る時はノックし確認してから入室し、排泄の失敗時はさりげない声掛けとケアを行い、自尊心を傷つけないよう対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合ったコミュニケーション方法を見出し、表情や発語から思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々のペースや訴えに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要都度整容やマニキュアや化粧の支援をしている。気候に合った服装や好みの服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った献立作りや、週1回の選択メニュー、行事食を提供している。利用者様の希望を取り入れたり、誕生日にはその方の好きな食べ物を献立に入れるよう美味しく楽しく食事ができるよう努めている。食事準備や後片付けはできる範囲で職員と一緒にやっている。	食事係の職員が献立(1ヵ月分)を作成し、週1回は選択メニューとして、好きな主食を選べるようにしている。庖丁を使用できる方は皮むきなど食材の準備をし、盛り付け、食器洗い、おしぼり洗いなど、個々の利用者が出来ることを役割としている。誕生日にはケーキや好物をメニューに入れ、行事食にはアルコールを少量提供することもある。寝たきりの方も、車椅子(リクライニング)で食卓につき、一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録して情報共有している。毎月の体重測定で増減を把握するようにしている。摂取量が少ない場合は好みの飲み物やゼリーにしたり、嚥下や咀嚼状態によって食事形態を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、仕上げ磨きは職員が行っている。義歯のある方は夜間消毒をしている。必要に応じて歯科受診している。口腔マッサージや口腔体操で唾液の分泌を促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけて個々の排泄パターンに合わせた時間でトイレ誘導やパット交換を行っている。2人介助でトイレ誘導したり、夜間はパット交換にする等状態に合わせて支援している。状態が変わる都度、委員会で話し合い対応を検討している。	業務改善委員会で、利用者個々の状態に合わせて、おむつ等の排泄用品を検討し、家族の了解を得て使用している。誘導が間に合わず失禁する方もいるが、綿パンツを使用し自立を促す支援をしている。失禁時は、自尊心に配慮した支援を行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤での調整を行っている方もいるが、できるだけ自然排便を促すよう、レクや散歩で身体を動かしたり、食物繊維の多い食材を献立に取り入れたり、寒天ゼリーや牛乳の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を基本とし、グループ分けをしているが、拒否のある方は時間をずらしたりと状況に応じて対応している。身体状況によって機械浴や清拭対応をしている。	浴室は毎日準備し、週2回の入浴を基本としている。南棟は機械浴槽、北棟は一般浴槽で、身体の状態に合わせて利用している。入浴時には、全身の観察をし、必要時看護師に報告し対応している。入浴を嫌がる方には声かけや誘導を工夫し、支援している。毎年母の日には家族から薔薇の花が贈られ、薔薇湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家にいた時と同じような家具配置にしたり、身体状態に合わせたベッド位置にしている。寒すぎたり暑すぎたりしないようエアコンや掛物での調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイリングして確認できるようにしている。薬の変更や頓服薬が出た場合は、確実に申し送りをして周知徹底し、副作用や状態変化がないか経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や覚えている事に合わせて食器拭きや洗濯物たたみ、食材切り等手伝って頂いている。花が好きな方とは花の本を見ながら談笑したり、猫が好きな方には施設で飼っている猫と触れ合ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出が難しい状況である。施設周りや畑への散歩や日光浴を行ったり、少しの間でも外気に触れるようにしている。	コロナ禍のため、遠くまでの外出を控えているが、事業所の周りや隣接の保育園の園庭までの散歩をしている。散歩が出来ない時は、保育園の様子をホームから見る事が、利用者の楽しみとなっている。利用者に代わって、家族が種まきから草取りまで行っており、その畑を観察することが、日光浴や外気浴ともなっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームいいとよ 南乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力の面からほとんどの方が立替払いでの対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、年賀状作成の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品や季節に合った飾り付けをしている。日中は天窓から日が差し込み明るい。テーブルやソファは過ごしやすいような配置にしている。エアコンや床暖で適温を保つようにしている。	ホールには、食卓や椅子、テレビ、ソファが配置されており、エアコンや床暖房で適切な生活環境となっている。定時で換気し、食卓は、ビニールシートで席を隔離して、感染予防に努めている。壁には、季節感のある紅葉とイチョウの貼り絵を飾ったり、今月は書初めの習字など、利用者の作品を掲示している。利用者は、志村けんやドリフターズの録画を観て大声で笑っている。北棟と南棟を行き来している飼い猫は、利用者の和みや職員の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休んだり、ソファやベンチで思うように過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・エアコン・洗面台が備え付けてある。持ち込みに特に制限はない。作品や家族様と撮った写真等を飾っている。	居室には、ベッド、タンス、エアコン、洗面台が設置されている。利用者は、自宅から使い慣れた寝具やテレビ、家族写真、カレンダー等を持ち込んでいる。ぬいぐるみを枕元に置いたりして、居心地のいい居室となっている。掃除は職員が行なっているが、自分で出来る方は役割として取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札、トイレと表記して分かるようにしている。個々の身体状態に応じて動線を考えた家具配置にしている他、ぶつかりやすい柵や棧、手摺の保護をしている。		